

様式（細則 5 - 2）

令和 2 年 1 月 19 日

浜田市議会議長 川神裕司 様

議員名 野藤 薫



調査研究活動報告書

下記のとおり調査研究のため（~~視察~~・~~研修~~）を（~~実施~~・~~受講~~）したので、その結果を報告します。

記

1. 期 間 令和 2 年 1 月 15 日（水）18 時半～21 時
令和 2 年 1 月 16 日（木）10 時～12 時
2. 研修内容 プロジェクト未来遺産鞆の浦委員会主催 国際フォーラム
3. 研修先 福山市（広島県民センターふくやま）
福山市（鞆の浦）
4. 調査経費 19,392 円
【経費内訳】 交通費 高速代 5,690 円 ガソリン代 5,052 円
駐車場代 300 円
宿泊費 8,350 円
5. 調査研究活動の概要
別紙のとおり



【研修の概要】プロジェクト未来遺産 鞆の浦委員会主催の 国際フォーラムに参加した。フォーラムは『起承転結』で進行、展開された。

① 起…河野俊行国際イコモス会長の挨拶で開会

瀬戸内へのインバウンドツーリズムへの人気が高まっている。長期の滞在型ツーリズムのポテンシャルが高いが、特に昔の風情や町並みなどの風景が残る鞆の町並みの保存活用を50年後、100年後を見据えてフォーラムを行いたい。

② 承…国際イコモス委員による視察結果報告と提言

報告者はユネスコ、国連開発計画、イクロム、イコモスの委員
「往時を保存する事は難しい。時代の変化にどの様に対応していくか、そこに暮らす人が、自らの存在も含め考えていく事が必要だ」
「世代間の繋がりを対話を通じて構築すべき」
「行政や市民の取組みで保存活用される。それは始まりだ。インクルージョンとダイバーシティが重要」「鞆の浦の持つ海の営み、海への広がり素晴らしい」

③ 転…ユネスコ親善大使平山郁夫画伯と鞆の浦

平山郁夫美術館館長、平山助成氏と立命館大学特任教授、益田兼房氏との対談。平山画伯は1930年生口島に生まれる。15歳中学の時に広島で被爆し九死に一生を得る。生まれ育った瀬戸内の風景と被爆の体験から仏教的な絵画や文化遺産の保存活動を行った。ユネスコ親善大使として、戦争によるバーミアン大石仏などの文化遺産の破壊への抗議を行った。晩年は鞆の浦の保存活動に尽力。

④ 結…鞆の浦の今そして未来への展望

藻谷浩介氏の司会で苅谷勇雅日本イコモス副委員長、下間久美子文化庁主任文化財調査官、金野幸雄(一社)ノオト創業者による標題のディスカッションが行われた。

6. 所 感

浜田市においてユネスコ無形文化遺産の和紙や二つの日本遺産登録の文化財北前船寄港地の船主集落や石見神楽など保存活用への期待されるものが有る。また、浜田開府400年を機に地域の歴史や文化への認知度も高まってきた。このフォーラムへの参加により、イコモスなどの国際機関が考える文化遺産保存の方向性や、将来を見据えた保存活用について、今後の浜田市の諸施策へ参考になればと考える。

